




# インフォメーション・コーナー

## 会 告

○重要なお知らせ！ 2023 年度第 7 期代議員選挙の電子投票移行について	60
○お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付	60
○技術者継続教育機構業務運営要領等の一部改正	61
○CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載	61
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	61
○改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内	61
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	62
○2024 年の学会誌表紙写真の募集 春季締切 6 月 30 日	63
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2022 年 7 月から 2024 年 6 月までの編集体制と編集事務局	64
○第 80 回京都支部研究発表会の開催（第 1 報）  発表申込締切 6 月 30 日	65
○令和 5 年度（第 104 回）九州沖縄支部大会の開催（第 1 報）  10 月 26, 27 日開催	66
農業農村工学会論文集 内容紹介	67
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧 	68
学会記事	69

## 会員のみなさまへ

引っ越しや転勤で個人情報に変更のある方は、suido@jsidre.or.jp までご連絡ください。

なお、会員専用サイトでも、登録された個人情報の確認と変更手続きができます。

### 第 91 巻第 5 号予定

**展望：**水田主体のアジアモンスーン地域における技術協力や研究課題の行方：増本隆夫

**小特集：**気候変動に対応したアジアモンスーン地域における水田灌漑の展開方向

報文：カンボジアにおける灌漑排水設計基準策定の取組み：徳若正純ほか

報文：アジアモンスーン地域における間断灌漑普及に向けた展開方向：渡辺 守ほか

報文：アジアモンスーン地域における気候変動課題を踏まえた海外農業農村開発協力の展開方向：小西克己ほか

報文：気候変動下での農業者の選択と水資源の相互影響評価の枠組：高田亜沙里ほか

### 技術リポート

北海道支部：開水路の沈下抑制に EPS ブロック基礎を用いた施工事例：竹内昭登ほか

東北支部：圃場整備における ICT 活用工事：渡邊 強

関東支部：赤城西麓地域における獣害対策：平川 遼ほか

京都支部：出島地区の表土整地における湛水均平工法の事例：本井雅也ほか

中国四国支部：令和 3 年発生農地農業用施設災害の復旧：藤野 充

九州沖縄支部：船ノ原第二地区における地すべり対策工：山田幸正ほか

## 農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。なお、新型コロナウイルス感染症防止対策等により、ライブ配信での口頭発表が行われない場合は、認定プログラムの対象にならないこととございます。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2023年8月 29日～9月1日	大会運営委員会	2023年度農業農村工学会大会 講演会 Ⓟ	—	愛媛県	90巻12号, 91巻1, 3号
2023年10月 26, 27日	九州沖縄支部	令和5年度(第104回)支部大会 Ⓟ	—	那覇市	91巻4号
2023年11月 28, 29日	京都支部	第80回研究発表会 Ⓟ	—	津市	91巻4号

### 重要なお知らせ！ 2023年度第7期代議員選挙の電子投票移行について

デジタル化が進められている現在、学会の代議員選挙についても2023年度から電子投票に移行することとしました。つきましては、学会に電子メールアドレスの登録がない会員は、学会ホームページの会員専用サイト(31ページ参照)から4月

14日までに登録をお願いします。登録がない会員は従来通り書面投票によることとなります。詳しくは、学会ホームページ等でお知らせします。

### お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付

新型コロナウイルスの対策として学会で2023年度の学生年会費を免除することが決定しました。また、大学改革の第二幕を迎えている現在、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿っており、研究費の削減から人材の育成も困難になっています。そのため、産官学の連携協力の強化を進めているところですが、一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

- (1) 学会の事業計画に沿った調査・研究(学会に一任)  
(※特に記載がなければ(1)として扱います。)

- (2) 条件を付した寄付

選定条件【

- ① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進  
・気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進
- ② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進  
・頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮

に資する技術開発

- ③ ①、②以外の分野および学際的・学際的分野に関する調査・研究の推進  
・上記①、②以外、たとえばICTなど新たに取り組んでほしい技術
- ④ 国際学会会議への出席等の国際交流の推進
- ⑤ 若手研究者の育成の推進
- ⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進  
・青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理  
・世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など  
詳しくは学会ホームページ([http://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin\\_kifuno-onegai/](http://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onegai/))をご覧ください。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

公益法人である学会に法人が寄付すると法人税に対して税制優遇措置(一般損金算入限度額+特別損金算入限度額)が受けられます。

## 技術者継続教育機構業務運営要領等の一部改正

農業農村工学会技術者継続教育機構では、CPD 記録の不正な申請行為等を抑止するため業務運営要領等の一部改正し、2023 年 4 月 1 日から施行いたします。

### 1. 改正の理由

技術者継続教育機構では、技術者は倫理観を備えているとの前提でルールを構築していたため、現行規程の下では登録の抹消以外に不正行為に対応する内容を定めていませんでした。しかしながら、CPD 取得証明の持つ社会的意義の重大化に伴い、CPD 制度の運営機関の責任として不正行為を抑止する仕組みが必要であることから、「技術者継続教育機構業務運営要領」および「技術者継続教育機構業務運営細則」に不正行為の定義を明示しそれらを行った登録者に課すペナルティを定めることにより、不正行為の抑止を図るとともに発生した不正行為に迅速に対処することとしました。

### 2. 改正の範囲

- (1) 技術者継続教育機構業務運営要領の一部改正
- (2) 技術者継続教育機構業務運営細則の一部改正

### 3. 施行日 2023 年 4 月 1 日

### 4. ガイドラインの制定

新たに定められた制限事項はありません。不正行為の範囲を明確にするため「登録者の不正行為に関する判定とペナルティのガイドライン」を定めました。また、ガイドブックなどにペナルティの対象となる事案を例示することで、登録者の理解を深めます。

詳細は技術者継続教育機構ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/cpd/>) をご参照ください。

## CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載

農業農村工学会技術者継続教育機構では、農業農村工学会員でもある CPD 個人登録者が在宅のまま CPD 単位が取得できることを目的に「CPD 通信教育」を実施しています。

2021 年 9 月より、技術者継続教育機構のホームページにそ

の時点で解答可能な「通信教育問題」と解答期限を過ぎた「解答」を掲載しています。学会誌がお手元に届くまでの間はホームページ上で通信教育問題をご確認くださいようお願いいたします。

## 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

### 1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

### 2. 出題内容と出題方法

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

### 3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

### 4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌 4 号掲載の問題は 5 月末日が解答期限）

### 5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7～9 問正解で 1.5 cpd を自動登録（正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません）

### 6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

## 改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧希望の皆様へ

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典は、2019 年 8 月 27 日に発行し好評を得ていますが、下記に該当する冊子購入者の中

で希望される方には、学会ホームページ上 (<http://www.jsidre.or.jp/nnj/202101/yougojiten-web.html>) で閲覧サービスを行っています。該当する閲覧希望の方は、下記にしたがい閲覧の手続きをお願い申し上げます。

- (1) 本用語事典の学会 Web 上での開示については、①正会員でかつ個人で購入した方、および②学生会員での購入者（大学等での先生の紹介によるグループ購入者も含む）の中で希望される方へサービスを提供します。
- (2) 上記の条件を満たす方で閲覧を希望される方は、「改訂6版用語事典 Web 上閲覧希望」とメール件名に明記の上、氏名、会員番号および購入年月を付記して（学生会員でグループ購入された方は、紹介の先生の氏名も含む）、下記 E-mail 宛にお申し込みください。

suido@jsidre.or.jp

- (3) 上記メールを受信および確認後、閲覧の手順およびパスワードを返信メールにてご連絡申し上げます。
- (4) 学会ホームページ上で閲覧が可能なものは、改訂6版農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版が付記されたコンテンツになります。なお、Web 版とは、改訂5版から改訂6版の編集において、時代や科学技術の変化にともない改訂6版から削除した用語の中から現在においても参考になる用語を取録したものです。

## 「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

### 1. 学会誌小特集の要旨の募集とその報文原稿の執筆

学会誌は毎号テーマを設定した報文小特集を基本に、企画・編集を行っています。本小特集に投稿を希望される会員の皆様には、先に、下記に示す各号の趣旨に沿った報文要旨（A4判、1,500字程度、様式自由）を要旨締切り日までに提出していただきます。

その後、企画・編集委員会において提出された要旨の内容を

検討し、小特集報文を提出していただく連絡を要旨提出された方に行います。その報文原稿の締切り期日は、おおむね本文原稿提出連絡日の約1カ月後です。本文原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守をお願いいたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがあります。

### 学会誌第91巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判1,500字程度)
第91巻第5号 気候変動に対応したアジアモンスーン地域における水田灌漑の展開方向 (仮)	終了
6号 データ駆動型社会の実現に向け加速する ICT・解析技術 (仮)	終了
7号 大会特集号 (中国四国支部)	公募なし
8号 ——	公募なし
9号 農地の利用について考える (仮)	終了
10号 技術者のスキルアップへの取組み (仮)	4月10日
11号 農業水利施設の管理、保全、更新に係る技術的課題と課題解決への取組み (仮)	5月10日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。

送付先 (要旨および本文原稿など)

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

\*提出は、E-mail の添付ファイルにてお願い申し上げます。

### 第91巻第10号小特集テーマ「技術者のスキルアップへの取組み」(仮)

近年、国を挙げてのDXの推進により、デジタル技術を導入した新技術が開発されています。農業農村工学分野においても、農村整備および施設整備などのいわゆる土木工事において、新たな施工方法や施工材料などが開発・活用されるとともに、情報化施工技術の普及も進みつつあります。また、この土木工事実施のために必要な調査など、いわゆるコンサルタント業務においても新たな調査技術等が開発され各現場で実用化されており、技術開発は「変革」と言ってもいいほどのスピードで進んでいます。さらに、業務遂行に当たっては、社会、文化および環境に対する影響を予見し、地球環境の保全等、次世代にわたる社会の持続性を確保することが求められますが、脱炭素化の推進やウクライナ情勢など近年の社会情勢の変化は急であり、

新たな対応を求められる場面も多くなっています。

これらの施工・調査・設計を担う技術者は、新たな知識や技術を習得し、使いこなしていかなければなりません。技術の進歩や社会の変化が早まるほどその負担は大きくなり、個人レベルの努力のほかに、組織的な支援も必要となります。高齢化や就労人口の減少、他産業との競合などにより人手不足が深刻化する中、技術者のスキルアップや組織的育成による、生産性の向上やワーク・エンゲージメントの醸成は、農業農村工学分野における喫緊の課題と言えます。

このような中、第91巻第10号では「技術者のスキルアップ」に焦点を当てた小特集を企画します。OJTやOFFJTなど組織やグループにおける技術者育成や自己啓発支援の取組み、技

術者としての豊富な現場経験をふまえた今後の技術者育成のあり方、大学など教育機関におけるリカレント教育や社会人コースにおける取組み、学生からみた農業農村工学への将来像や問

題提起など、幅広い視点からの報文を広く募集します。また、技術者として資格取得などの実践的な取組み・体験記などのレポートも歓迎します。

## 第91巻第11号小特集テーマ

### 「農業水利施設の管理、保全、更新に係る技術的課題と課題解決への取組み」(仮)

農業水利施設は、わが国の食料供給と農業・農村の多面的機能の発揮に不可欠な国民的資産となっており、基幹的な用排水路だけでも約5万km、末端も含めれば40万km以上という膨大な資産を形成しています。戦後から高度経済成長期急速に整備が進められたこれらの施設は老朽化が進行しており、現在、これら施設の機能を効率的に保全していくためのストックマネジメントの取組みが進められています。また、近年では、農業者の高齢化・減少等に対応するため、スマート農業の実装を可能にする施設整備が求められています。

新たな土地改良長期計画（令和3年3月23日閣議決定）においては、政策課題に「農業・農村の強靱化」、「生産基盤の強化による農業の成長産業化」が位置づけられており、ICT等の新技術を活用した農業水利施設の戦略的保全管理や、スマート農業推進の観点から多様化する水需要に柔軟に対応する

ICT水管理等を可能にする農業生産基盤整備を推進する視点が盛り込まれています。今後の農業水利施設のストックマネジメントにおいては、地域の実情に応じて新技術の導入を適切に図ることで、施設の長寿命化や機能保全を効率的に推進することが重要になると想定されます。また、農業水利施設では、従来の幹線系の通信システムであるTM/TCに加えて、支線系から圃場までの情報インフラの整備等による新たな管理体制作りが検討されています。

こうした状況を踏まえ、第91巻第11号では「農業水利施設の管理、保全、更新」に焦点を当てた小特集を企画します。スマート農業に対応するための農業水利施設の管理や整備、あるいはICT、AI等の新技術を活用した施設の点検や機能診断のさらなる省力化・高度化といった農業水利施設の保全や更新に関して、多様な視点からの報文を募集します。

## 2. 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿報文およびその他の投稿区分の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/journal/>）に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、「『農業農村工学会誌』原稿執筆の手引き」

を熟読の上、小特集と同じく農業農村工学会誌企画・編集委員会あてに、ご投稿ください。

ご投稿に当たっては、投稿票・内容紹介・本文（テンプレート）の各ファイル（Word）を上記の学会ホームページからダウンロードし、原稿の作成にご使用ください。

## 2024年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2024年発行の学会誌も引き続き学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

### 趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

### 記

### 1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦労が垣間見える造形美・用の美など」

### 2. 対象巻号 学会誌第92巻（2024年第1～12号）

### 3. 写真などの種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず四つ切りを含むA4以上B4以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写真用紙—光沢紙」を使用してください。四つ切りワイドも含みます。なお、四つ切りは254×305mm、同ワイドは254×356mm、A4は210×297mm、B4は257×364mmです。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。データを送信する場合は一点につき20MB以下とし、これを超えるものはCDまたはDVDにて送ってください。形式はJPEGのみに限定します。

### 4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 春季 2023年6月30日  
夏季 2023年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したものに限りです。

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

#### 7. 結果発表

学会誌第92巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は2024年度大会講演会会場内でパネル展示します。

#### 8. 被写体の説明文または「Cover History（表紙写真由来）」の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者は、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」にご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料（1点につき1万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

#### 9. 使用権・著作権

採用作品の使用権および著作権は（公社）農業農村工学会に属します。

#### 10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の学会誌への掲載、肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

#### 11. 応募方法および応募先

学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/format/>）より、投稿票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mailアドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名称）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

### 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2022年7月から2024年6月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering：PAWEES）では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」（略称：PAWE）を発行しています。なお、Paddy and Water Environment 誌の略称は、これまでPWEとしておりましたが、2022年11月の国際集会以降はPAWEに統一されることとなりました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2021年のインパクトファクター（IF）は1.554と過去最高の値になり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理）
- ② 排水（排水管理、排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良、土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発、水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節、地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生、陸生動植物の生態系）
- ⑦ 水利施設と減災・防災（施設管理、地すべり、気候変動、災害防止など）

- ⑧ 地域計画（農村計画、土地利用計画など）
- ⑨ バイオ環境システム（水田農業と水環境、土壌環境、気象環境）
- ⑩ 水田の多目的利用（田畑転換、施設園芸）
- ⑪ 農業政策（農村振興、条件不利地の支援策など）

また、世界11カ国からEditor（20名）を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

2022年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

#### 編集体制

##### ・Editor-in-Chief

Dr. Toshiaki IIDA

Faculty of Agriculture, Iwate University, Japan

##### ・Associate Editors-in-Chief

Dr. Seong-Joon Kim

Konkuk University, Korea

Dr. Yu-Pin Lin

National Taiwan University, Taiwan, ROC

##### ・Editors 13カ国から20名

##### ・Editorial Advisors 30名

##### ・Chief Managing Editor

**Dr. Chihhao FAN**  
Department of Bioenvironmental Systems Engineering,  
National Taiwan University, Taiwan, ROC

• **Managing Editors**

**Dr. Eunmi HONG**  
School of Natural Resources and Environmental Science,  
Kangwon National University, Korea

**Dr. Taeil JANG**  
Department of Rural Construction Engineering, Chonbuk  
National University, Korea

**Dr. Kuo-Wei LIAO**  
Department of Bioenvironmental Systems Engineering,  
National Taiwan University, Taiwan, ROC

**Dr. Tasuku KATO**  
Institute of Agriculture, Tokyo University of Agriculture  
and Technology, Japan

**Dr. Katsuyuki SHIMIZU**  
Faculty of Agriculture, Tottori University, Japan

**Dr. Soji SHINDO**  
Rural Development Division, Japan International  
Research Center for Agricultural Sciences(JIRCAS),  
Japan

編集事務局 (2024年6月まで台湾担当)

Dr. Chihhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,  
National Taiwan University, Taiwan, ROC

No. 1, Section 4, Roosevelt Road, Taipei, Taiwan,  
ROC

TEL : +886-2-3366-3476

FAX : +886-2-2363-5854

E-mail : chfan@ntu.edu.tw

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になり  
ます。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員で PAWE 誌の購読者であ  
ること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載してい  
ます。

発行スケジュール : 年 4 回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 9,900 円 (税込)

学生会員 (院生含む) 4,950 円 (税込)

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず  
農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016 年度  
からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になっていま  
す。冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局 ([suido@jsidre.or.jp](mailto:suido@jsidre.or.jp)) まで会  
員番号を明記の上、お申し込みください。

## 第 80 回京都支部研究発表会の開催 (第 1 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



### 1. 研究発表会

日時 2023年11月28日(火) 10:00~17:00

場所 三重県総合文化センター

〒514-0061 三重県津市一身田上津部田 1234

TEL : 059-223-1111

(受付・開会式、表彰式・基調講演・研究発表会・情  
報交換会)

### 2. 情報交換会

日時 2023年11月28日(火) 18:00~20:00

### 3. 現地研修会

日時 2023年11月29日(水) 9:00~16:00

### 4. 研究発表申込み

研究発表者は投稿原稿に先立ち、6月末日までに、以下の情  
報を箇条書きにしたメールを下記の発表申込先(大阪公立大  
学・中桐)にご送付ください(件名を「発表申し込み」として  
ください)。①表題(仮題でも可)、②発表者名、所属、年齢、  
③連名者名、所属、年齢、④希望発表部門(水理、水文・気象、  
土壌物理、土質力学、応用力学、材料・施工、施設管理・更新、  
灌漑排水、農地造成・整備・保全、農村計画、環境保全、生態  
環境、地震・その他)、⑤発表者の連絡先電話番号、⑥発表者

のメールアドレス。

発表者要件は「発表者は学会員に限らない。ただし、連名者  
に少なくとも1名は学会員が含まれること」となっております。  
なお、投稿原稿に関する詳細な要領は本誌第6号をご覧ください。

### 5. 参加費(予定)

会 員 : 3,000 円

非会員 : 4,500 円

### 6. 発表申込先

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町 1-1

大阪公立大学大学院 農学研究科 緑地環境科学専攻  
准教授 中桐貴生

E-mail : [nakagiri@omu.ac.jp](mailto:nakagiri@omu.ac.jp)

TEL : 072-254-9647 FAX : 072-254-9437

### 7. 申込期限

(1) 発表申込み 2023年6月末日

(2) 原稿締切り 2023年7月末日

(3) 参加申込み 2023年8月末日

### 8. 開催地事務局

三重県農林水産部農業基盤整備課  
農業基盤企画班 牛草、久保

E-mail : kubon01@pref.mie.lg.jp

TEL : 059-224-2556 FAX : 059-224-3153

諸事情により、開催形式をオンラインに変更する場合がありますのでご了承ください。

## 9. その他

## 令和5年度（第104回）九州沖縄支部大会の開催（第1報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



## 1. 期日および内容

- (1) 講演会：令和5年10月26日（木）  
オーラルセッション・ポスターセッション
- (2) シンポジウム：令和5年10月26日（木）  
テーマ未定
- (3) 講習会：令和5年10月26日（木）  
設計基準書等の解説
- (4) 現地見学会：令和5年10月27日（金）  
未定

## 2. 会場

沖縄県市町村自治会館  
沖縄県那覇市旭町116-37

## 3. プログラムおよび申込方法等

第2報にて詳細をお知らせします。  
新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、開催方法および内容が変更となる場合があります。

## 4. 問合せ先

沖縄県村づくり計画課 謝花, 中村  
TEL : 098-866-2263 FAX : 098-869-0557  
E-mail : jahanys@pref.okinawa.lg.jp

## オンラインジャーナル 農業農村工学会論文集

農業農村工学会論文集は、より投稿しやすい環境と早期公開を実現するため、平成27年4月よりJ-STAGEを利用したオンラインジャーナルになりました。

J-STAGE上に公開されることで被引用環境も整っています。

進化した農業農村工学会論文集に皆様のご投稿をお待ちしております。

→電子投稿・査読システムの導入により、平均4カ月で審査終了！

→審査終了後、順次J-STAGEに掲載！

→論文集購読者は、オンライン登載直後より閲覧可能、

冊子体も配布、掲載料も低価格！

→投稿資格を緩和、非会員も条件により投稿可能に！